

# 「明日の医療は貴女が創る」

日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについて

日本医師会常任理事 小森 貴

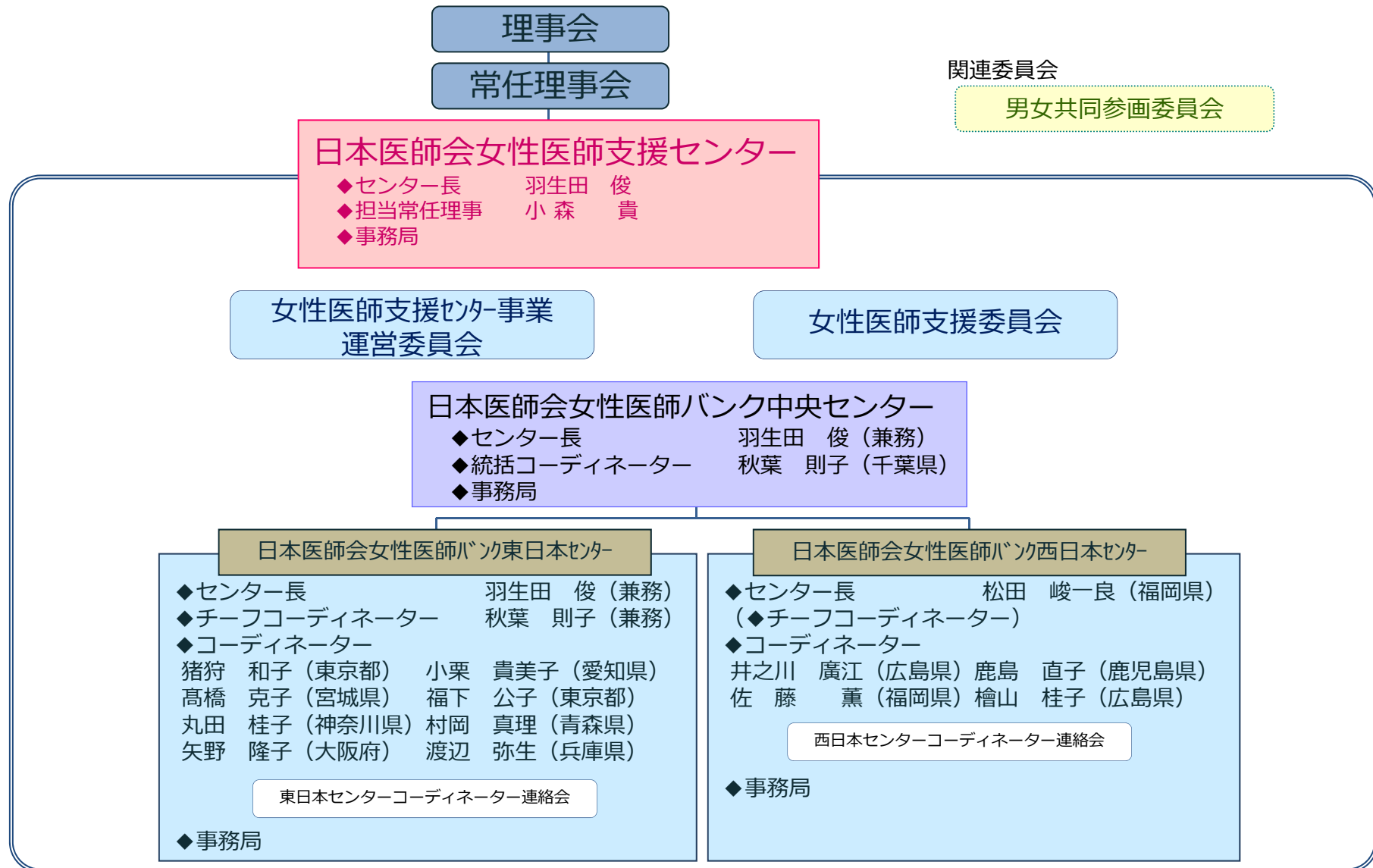
# 女性医師支援センター事業

女性医師は出産や育児により離職せざるを得ない状況にあり、パートタイム勤務など女性医師がライフステージに応じて働くことのできる柔軟な勤務形態の促進を図り、もって医師確保対策に資することを目的とする。

(厚生労働省委託「女性医師支援センター事業委託費実施要綱」より)

- 平成18年11月  
厚生労働省より「医師再就業支援事業」を受託
- 平成19年1月  
日本医師会女性医師バンク開設（就業継続支援、再研修含む）  
女性医師バンク以外の事業も開始
- 平成21年4月  
「医師再就業支援事業」改め「女性医師支援センター事業」へ  
(女性医師の勤務継続への支援に重点を置き、更なる事業の発展を目指す。)

# 女性医師支援センター事業 組織図



## 平成25年度女性医師支援センター事業 事業計画

1. 女性医師バンクによる就業継続、復帰支援（再研修を含む）
2. 医学生、研修医等をサポートするための会
3. 各都道府県女性医師相談窓口への支援
4. 女性医師支援センター事業ブロック別会議の実施
5. 医師会主催の講習会等への託児サービス併設促進と補助
6. 「2020.30」推進懇話会の開催
7. 女性医師の就労環境の改善と健康支援
8. 「女性医師支援事業連絡協議会」の開催
9. 大学医学部の女性医師支援担当者連絡会の開催
10. 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」の実施

## 女性医師バンク

「**日本医師会女性医師バンク**」平成19年1月30日開設

- ☆ 会員・非会員を問わず利用できる
- ☆ 求人・求職共に無料
- ☆ 現役医師のコーディネーターが、相談・マッチングにあたる

◇求職登録者数	:	239名（累計683名）
◇求人登録施設数	:	1,534施設（延べ1,738施設）
◇求人登録件数	:	953件（延べ4,164件）
◇就業実績	:	366件
内訳）就業成立	:	349件
再研修紹介	:	17件

（平成25年8月末現在）

## 医学生、研修医等をサポートするための会

女性医師が生涯にわたりもっている能力を十分発揮するためには、職場や家庭における男性の理解と協力が不可欠であり、性別を問わず、医学生や研修医の時期から男女共同参画やワークライフバランスについて明確に理解しておくことが求められる。本講習会等を通じ、医学生や若い医師がキャリアを中断せずに就業を継続できるよう、多様な医師像のモデルを提示する。

### ◇ 都道府県医師会等に対し、開催を依頼

(平成18-19年度は男女共同参画委員会が都道府県医師会と共催)

平成18年度*	10
平成19年度	25
平成20年度	44(医師会32、その他12)
平成21年度	47(医師会34、その他13)
平成22年度	56(医師会43、その他13)
平成23年度	57(医師会44、その他13)
平成24年度	60(医師会44、その他16)

\*平成18年度はモデル事業として10道県のみ開催

### ◇ 開催に掛かる費用のうち、30万円を上限として、本会が負担

## 平成25年度女性医師支援センター事業ブロック別会議

◇北海道・東北ブロック（担当：北海道医師会）

日 時：平成25年9月21日（土） 15時00分～

場 所：北海道医師会館

◇関東甲信越・東京ブロック（担当：日本医師会）

日 時：平成26年2月1日（土） 15時00分～

場 所：日本医師会館

◇中部ブロック（担当：岐阜県医師会）

日 時：平成25年11月17日（日） 11時00分～

場 所：岐阜市内ホテル

◇近畿ブロック（担当：兵庫県医師会）

日 時：平成25年10月6日（日） 14時00分～

場 所：神戸市内ホテル

◇中国四国ブロック（担当：岡山県医師会）

日 時：平成25年12月21日（土） 15時00分～

場 所：岡山コンベンションセンター

◇九州ブロック（担当：鹿児島県医師会）

日 時：平成25年12月8日（日） 13時30分～

場 所：鹿児島県医師会館

## 医師会主催の講習会等への託児サービス併設促進と補助

勤務継続及び復職の支援の一環として、育児中の医師の学習機会を確保するため、各医師会が主催する講習会、講演会、研究会等に託児サービスを併設する費用を補助する。

対象：都道府県医師会または郡市区医師会が主催する講習会、講演会、研究会 等

### 【利用実績】

	利用医師会数	利用者数（子どもの数）
平成21年度	14医師会	102人
平成22年度	20医師会	231人
平成23年度	20医師会	174人
平成24年度	23医師会	284人

上記には、日本医師会利用分も含む



## 『2020.30』推進懇話会①

指導的立場、意志決定機関への女性の参画についての積極的な取り組み

「2020年30%」の目標実現に向けて 日本医師会の積極的改善措置（ポジティブ・アクション）

### 【趣旨】

役員会承認（23.3.9定例記者会見発表）

平成22年12月、第3次男女共同参画基本計画が閣議決定され、この中で「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標が改めて明記されるとともに、各分野の女性の積極的登用についての成果目標が掲げられたところである。

日本医師会においても、以下の通り、成果目標を掲げて積極的改善措置（ポジティブ・アクション）に関する取り組みを進めていく。

### 【成果目標】 「女性一割運動」

1. 平成24（2012）年度までに、委員会委員に女性を最低1名登用！  
女性一割に！
2. 平成26（2014）年度までに、理事・監事に女性を最低1名、  
常任理事に女性を最低1名登用！役員の女性の割合を一割に！

## 『2020.30』推進懇話会」②

「女性一割運動」についての数値目標を達成するため、女性医師会員に本会の組織・運営・活動に関わる理解を深め、将来、本会の活動に参加して頂くことを目的とする。

### 【日 程】

- 第1回 平成25年11月～12月頃 2時間 日医小講堂  
第2回 平成26年1月～2月頃 2時間30分 日医大講堂

### 【参加者】

- 第1回 これまで参加者されたことのない方を対象として開催。  
都道府県医師会に対し、女性医師支援や男女共同参画の分野には携わっていない方々も含め、  
広くご推薦を募る。
- 第2回 これまでの参加されたすべての方を対象として開催。

### 【内 容】

- 第1回 平成24年度第1回と同様、以下の内容で開催。
1. 日本医師会の組織と事業内容
  2. 日本医師会の運営の実際
  3. 当懇話会について
- 第2回 医師会が直面する問題とそれに対する取り組みについて担当役員が説明し、その後、質疑応答を行う。

## 大学医学部女性医師支援担当者連絡会

- 【目 的】
- ・本会女性医師支援センターの取り組みの周知
  - ・各大学医学部における女性医師支援や男女共同参画に関する取り組みについての情報（意見）交換
- 【開催日時】 平成25年9月27日（金）連絡会 14時～16時 （於：日医大講堂）  
懇親会 16時～ （於：日医小講堂）
- 【参加者】
- ・各都道府県医師会から推薦いただいた、管内の大学医学部の女性医師支援や男女共同参画の担当者
  - ・都道府県医師会担当役員等
- 【内 容】
1. 日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについて
  2. 事例発表
  3. 意見交換
    - ・日医の取り組みについてのご意見、ご要望等
    - ・各大学の取り組みについてのご質問等

## 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」

### 【標記講習会について】

目的：女性医師がキャリアを中断することなく、就業を継続するためには、病院長を始め上司・同僚の理解が不可欠であることから、女性医師に関する就業上の問題点を明らかにし、子育て支援についての理解を深める

- ・ほぼすべての都道府県医師会において開催することができたこと、また、対象となる病院長、病院開設者・管理者等の交代が、それほど頻繁ではないこともあり、平成21年度以降は一旦休止。

年度	開催回数 (都道府県医師会と共催)
平成18年度	22回
平成19年度	28回
平成20年度	31回



法律や制度面での変化

病院長等、対象者の入れ替わり



標記講習会を再開し、  
女性医師の勤務環境の整備をさらに推進

## 女性医師支援事業連絡協議会の開催

各地で実施されたブロック会議の内容を、全国規模で情報共有し、意見交換を行う機会として開催。

### 平成25年度 女性医師支援事業連絡協議会

次 第

日時：平成26年2月21日（金）

場所：日本医師会館 大講堂

開 会  
挨 拶  
議 事

1. 女性医師支援センター事業ブロック別会議 開催報告  
(各ブロック会議の総括や特徴的、先進的な取り組みの紹介)
  - ①北海道・東北ブロック
  - ②関東甲信越および東京ブロック
  - ③中部ブロック
  - ④近畿ブロック
  - ⑤中国四国ブロック
  - ⑥九州ブロック
2. 質疑応答（全体）・総合討論

閉 会

# 「女性医師の多様な働き方を支援する」

女性医師の多様な働き方・生き方を紹介するとともに、様々な年代・立場の女性医師からいただいた今後の女性医師支援についての提言を掲載。その他、本会女性医師支援委員会委員と本会役員等が行った議論の内容や、直近で実施した医学生に対するアンケートや女子医学生による座談会の内容なども掲載。



## 「女性医師のキャリア支援」DVD

女性医師のキャリア形成やライフスタイルのあり方を多くの女子医学生、研修医や若手の女性医師に伝えることを目的として、ロールモデルとなる女性医師の働き方や女性医師支援に携わる様々な立場の方々の考え方、取り組みを紹介するDVDを作成。

DVDは3枚組でそれぞれ以下の内容を収録。[敬称略、肩書きは作成時（H24.1）のもの]

### 1枚目 : 【講演編】

#### ○ご挨拶

- ・ 社団法人日本医師会副会長・日本医師会女性医師支援センターセンター長 羽生田俊

#### ○講演

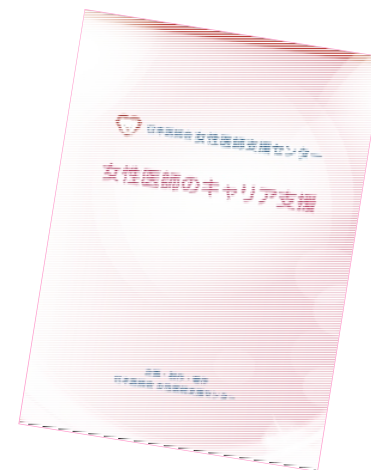
- ・ 日本医師会の女性医師支援について  
社団法人日本医師会常任理事 保坂シゲリ
- ・ 女性医師支援と男女共同参画  
自治医科大学医学部長 桃井眞里子
- ・ 女性医師キャリア支援  
横浜市立大学大学院医科学研究科長、生体制御・麻酔科学主任教授 後藤隆久
- ・ 女性医師支援が病院を活性化する  
大阪厚生年金病院名誉院長・統括医療顧問 清野佳紀

## 2枚目 : 【対談・インタビュー編1】

- ・私の選択（心臓血管外科、小児科）  
東京女子医科大学心臓血管外科 立石実、 青森県立中央病院小児科 會田久美子  
日本医師会女性医師支援委員会委員、青森県医師会女性医師活躍推進委員 村岡真理
- ・二人三脚、医師夫婦の一例  
福岡大学医学部外科学講座消化器外科 愛洲尚哉、 日本医師会女性医師支援委員会副委員長 家守千鶴子
- ・行政で働く女性医師  
厚生労働省大臣官房国際課課長補佐 高岡志帆、 東京女子医科大学医学部第一生理学教室教授 川上順子
- ・今求められる医師像 医学教育の立場から  
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授・医歯学教育開発センター長 田川まさみ  
日本医師会女性医師支援委員会委員、青森県医師会女性医師支援室長 鹿島直子

## 3枚目 : 【対談・インタビュー編2】

- ・産婦人科の女性医師として  
都立多摩総合医療センター産婦人科部長 桑江千鶴子、  
社団法人日本医師会常任理事 保坂シゲリ
- ・眼科医として  
日本医科大学眼科学教室准教授 堀純子、  
日本医師会女性医師支援委員会委員 福下公子
- ・自分の命を主人公に（在宅医療にかける）  
緩和ケア診療所ふじ内科クリニック院長 内藤いづみ  
日本医師会女性医師支援委員会委員長・日本医師会女性医師バック中央センター統括コーディネーター 秋葉則子
- ・病理の醍醐味  
独立行政法人国立成育医療センター病理診断部部長 中澤温子、 東京女子医科大学医学部第一生理学教室教授 川上順子





# 日本医師会女性医師支援センター ホームページ



(TOPページ)

《[www.med.or.jp/joseiishi/](http://www.med.or.jp/joseiishi/)》

## 【主な内容】

### ◇支援情報

- ・各種制度の紹介
- ・女性医師バンクの事例紹介
- ・活躍中の女性医師の紹介

### ◇よくあるご質問

- ◇各地の女性医師相談窓口のホームページへのリンク 等

各種の支援情報を発信することにより、事業のより一層の充実を図る

## その他の日本医師会のこれまでの取り組み

- ◇ 「臨床研修中の産休・育休についての規程の整備」について、厚生労働省に要望し実現
- ◇ 「医療機関での短時間勤務正職員制度の導入」について支援策を要望し、平成20年度診療報酬改定で一部実現
- ◇ 「日本医療機能評価機構 医療機能評価項目」についての要望
- ◇ 「災害時の男女共同参画について」の要望
- ◇ 男女共同参画やワークライフバランスについての講義の医学部教育カリキュラムへの導入促進

## 臨床研修中の産休・育休についての要望

要望内容	結果
<p><b>新医師臨床研修制度における身分保証等について</b> (日本医師会女性会員懇談会委員長より日本医師会長宛、平成17年2月)</p> <p>厚生労働省に対し、臨床研修制度における産休期間中の身分保証、再開時の研修継続の保証について、「臨床研修制度に関する省令」に明記するよう強く働きかけることを要望。</p>	<p>産休を含めて延べ90日間の研修の休止について厚生労働省の省令に明記された。【次頁】</p>
<p><b>臨床研修中の妊娠・出産・育児等による中断についてのルールの明文化</b> (日本医師会女性医師支援センター長より日本医師会長宛、平成21年6月)</p> <p>厚生労働大臣に対し、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 臨床研修中の妊娠・出産・育児等による中断についてのルールの明文化</li><li>2. 臨床研修のについて、妊娠・出産・育児等に配慮した柔軟性をもったコースの設置について働きかけることを要望。</li></ol>	<p>1について、厚生労働省より各地方厚生局に対し、詳細なルールを周知するための通知が出された。</p>

事務連絡  
平成21年6月30日

各地方厚生局健康福祉部医事課長 殿

医政局医事課医師臨床研修推進室長

### 臨床研修を長期にわたって休止する場合の取扱いについて

臨床研修における休止期間については、「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」(平成15年6月12日医政発第0612004号。以下「施行通知」という。)において、研修期間を通じて90日を上限とすることとされているが、休止期間が90日を超える場合の取扱いについて、下記のとおり留意事項をとりまとめたので、貴局管内の臨床研修病院等に対し周知されたい。

#### 記

#### 1 趣旨

この留意事項は、妊娠、出産、育児、傷病その他正当な理由(研修プログラムで定められた年次休暇を含む)による休止期間が、研修期間を通じて90日を超える場合に、臨床研修病院が行う対応等について、まとめたものであること。

#### 2 臨床研修を長期にわたって休止する場合の取扱い

臨床研修を長期にわたって休止する場合においては、(1)(2)のように、当初の研修期間の終了時に未修了とする取扱いと、臨床研修を中断する取扱いとが考えられること。なお、未修了や中断に関する基本的な考え方、手順等については、施行通知によること。

##### (1) 未修了の取扱い

ア 当初の研修プログラムに沿って研修を行うことが想定される場合には、当初の研修期間の終了時の評価において未修了とすること。原則として、引き続き同一の研修プログラムで研修を行い、90日を超えた休止日数分以上の日数の研修を行うこと。

イ 未修了とした場合であって、その後、病院を変更して研修を再開することになった時には、その時点で臨床研修を中断する取扱いとすること。

## (2) 中断の取扱い

ア 病院を変更して研修を再開する場合には、臨床研修を中断する取扱いとし、研修医に臨床研修中断証を交付すること。

イ 臨床研修を中断した場合には、研修医の求めに応じて、他の臨床研修病院を紹介する等、臨床研修の再開の支援を行うことを含め、適切な進路指導を行うこと。

ウ 臨床研修を再開する病院においては、臨床研修中断証の内容を考慮した臨床研修を行うこと。

## 3 募集定員との関係

未修了の研修医に対して当初の研修プログラムに沿って研修を継続又は再開する場合若しくは研修を中断した研修医に対して研修を再開する場合であって、適切な指導体制が確保されていると認められる場合には、各病院の募集定員とは関係なく当該研修医に対して研修を継続又は再開できること。

## 4 臨床研修費等補助金との関係

臨床研修を長期にわたって休止した後に再開する研修医を受け入れた病院においては、当該研修医の研修期間を臨床研修費等補助金の交付対象とすることができること。この場合、交付対象となる研修期間は、研修を休止又は中断するまでに実施した研修の期間(月数)を24月から差し引いた期間となること。

## 5 地方厚生局における相談体制

各地方厚生局では、臨床研修を長期にわたって休止する場合の手続きに関する問い合わせや研修医からの相談を受け付け(別添1を参照)、適宜情報提供等を行っていること。

以上

## 医療機関での短時間勤務正職員制度の導入①

要望内容	結果
<p data-bbox="250 507 1234 555"><b>女性医師が勤務を継続するための支援について</b></p> <p data-bbox="250 560 1200 595">(日本医師会男女共同参画委員会より日本医師会長宛、平成19年2月)</p> <p data-bbox="284 643 674 691">厚生労働省に対し、</p> <ol data-bbox="320 699 1388 1153" style="list-style-type: none"><li>1. 都道府県知事宛に出された通知「医師に対する出産・育児等と診療の両立の支援について」(平成18年10月31日付)を国立病院機構とナショナルセンターに改めて通知する</li><li>2. 国家公務員の育児支援策として、医師の正職員短時間勤務制度の早期導入</li><li>3. 産休育休の代替要員についての制度化について働きかけることを要望。</li></ol>	<p data-bbox="1458 683 1955 962">厚生労働副大臣を通じ、1、2についてそれぞれの部署に取組の指示が出され、取組中との説明があった。</p>

## 医療機関での短時間勤務正職員制度の導入 ②

《入院基本料等加算の施設基準等（平成20年4月改定）》

### [入院時医学管理加算に関する施設基準等]

(5) 病院勤務医の負担の軽減に対し、次の体制を整備していること。

ア 病院勤務医の負担の軽減に資する具体的計画（例：医師・看護師等の業務分担、医師に対する医療事務作業補助体制、短時間正規雇用の医師の活用、地域の他の保険医療機関との連携体制、外来縮小の取組み等）を策定し、職員等に対して周知していること。

### [医師事務作業補助体制加算に関する施設基準]

(1) 病院勤務医の負担の軽減に対する体制がとられていること。

ア 病院勤務医の負担の軽減に資する具体的計画（例：医師・看護師等の業務分担、医師に対する医療事務作業補助体制、短時間正規雇用の医師の活用、地域の他の保険医療機関との連携体制、外来縮小の取組み等）を別添7の別紙13の2の例により策定し、職員等に周知していること。

### [ハイリスク分娩管理加算に関する施設基準]

(4) 病院勤務医の負担の軽減に対する体制がとられていること。

ア 病院勤務医の負担の軽減に資する具体的計画（例：医師・看護師等の業務分担、医師に対する医療事務作業補助体制、短時間正規雇用の医師の活用、地域の他の保険医療機関との連携体制、外来縮小の取組み等）を策定し、職員等に周知していること。

## 日本医療機能評価機構への要望

要望内容	結果
<p><b>日本医療機能評価機構の医療機能評価項目について</b> (平成19年3月に日本医師会勤務医委員会委員長、日本医師会男女共同参画委員会委員長の連名で日本医師会長あて提出)</p> <p>日本医療機能評価機構に対し、医療機能評価項目に、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. ゆとりある勤務体制</li><li>2. 子育てしながら勤務できる支援体制</li><li>3. 休業後の再就業を支援する体制</li></ol> <p>を加えるよう働きかけることを要望</p>	<p>日本医療機能評価機構理事長宛てに日本医師会長名で依頼</p> <p>↓</p> <p>平成21年7月運用開始の病院機能評価統合版評価項目V6.0より項目に加えられた</p>
<p><b>日本医療機能評価機構の医療機能評価項目における「主治医」の解釈</b> (平成22年3月に日本医師会勤務医委員会委員長、日本医師会男女共同参画委員会委員長の連名で日本医師会長あて提出)</p> <p>日本医療機能評価機構に対し、医療機能評価項目における「主治医」については「複数主治医」を包含したものとして解釈することを要望</p>	<p>日本医師会長名で、日本医療機能評価機構宛に要望書が提出</p>



## 政府への災害時の男女共同参画についての要望

要望内容	結果
<p data-bbox="248 467 1093 612"><b>災害時の男女共同参画について</b> (平成23年6月に日本医師会男女共同参画委員会より日本医師会長あて提出)</p> <p data-bbox="248 719 1093 1091">「防災・災害対策計画および復興計画などの<b>政策決定過程において男女共同参画の視点が反映されるように女性の参画を推進する</b>」ことについて、関係各機関に配慮を求める要望書を提出</p>	<p data-bbox="1131 459 1962 624">日本医師会長名で首相、都道府県知事などに「防災・災害・復興時の政策方針決定に関する件」の要望書が提出</p> <p data-bbox="1536 643 1576 699">↓</p> <p data-bbox="1131 724 1973 1118">政府より、「今後、東日本大震災への対応を通じた教訓も踏まえつつ、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立に引き続き努めてまいりたい」「防災政策や復興施策を議論する会議等への2名以上の女性の参画を推進すべく、努力してまいりたい」との回答</p>

# 「男女共同参画やワークライフバランスについての講義の 医学部教育カリキュラムへの導入促進」

「医学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－  
(平成22年度改訂版)」に採用

旧カリキュラム (H13.12策定、H19.12改訂)	H23.3 改訂版
<p>● 「医師として求められる基本的な資質」</p> <p>⑦ 医学・医療の進歩における医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、絶えず医療の質の向上に生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。</p> <p>● A 4 (3) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標： 学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p>	<p>● 「医師として求められる基本的な資質」</p> <p><u>(医学研究への志向)</u></p> <p><u>・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。</u></p> <p><b><u>(自己研鑽)</u></b></p> <p><b><u>・男女を問わずキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。</u></b></p> <p>● A 4 (4) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標： <u>医学・医療・科学技術の進歩と社会の変化（経済的側面を含む）やワーク・ライフ・バランスに留意して、医師としてのキャリアを継続させる</u>生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p>

# 男女共同参画委員会の活動

## (1) 会長諮問に対する検討

議論の流れのなかで

- ①関係方面への要望書提出
- ②各種調査の実施

## (2) 医師会における男女共同参画への取り組み

- ①男女共同参画フォーラムの開催
- ②都道府県医師会における女性医師に関わる問題への取り組み状況調査
- ③女性医師支援センター事業への協力
- ④ドクターラーゼへの寄稿

## 男女共同参画委員会に対する諮問

### 【諮問】

- 平成18・19年度（平成20年3月、唐澤会長に答申）  
「女性医師の勤務支援についての日本医師会の取り組み」
- 平成20・21年度（平成22年3月、唐澤会長に答申）  
「女性医師に対する実効ある就業支援策について」
- 平成22・23年度（平成24年2月、原中会長に答申）  
「日本医師会の男女共同参画への取り組みについて」
- 平成24・25年度**  
**「男女共同参画のさらなる推進のために」**

# 男女共同参画フォーラム

回(開催日時、開催地)	テ - マ
第1回 (平成17年7月30日、日医)	女性医師は何を求め、何を求められているか
第2回 (平成18年7月29日、大阪)	女性医師に関わる問題についての都道府県医師会の取り組み状況報告、パネルディスカッションなど
第3回 (平成19年7月28日、神奈川)	医師の勤務環境の改善を目指して
第4回 (平成20年7月19日、福岡)	医療崩壊をくいとめるために、今何ができるか、何をすべきか
第5回 (平成21年7月25日、北海道)	今、医師の働き方を考える -ともに仕事を継続するために-
第6回 (平成22年7月24日、鹿児島)	男女共同参画のための意識改革
第7回 (平成23年7月30日、秋田)	「育てる」～男女共同参画のための意識改革から実践へ～
第8回 (平成24年7月28日、富山)	変わる～男女共同参画が啓くワークライフバランス
第9回 (平成25年7月27日、山口)	みんなちがって、みんないい ～伝えたい、豊かな医療人をめざすあなたへ～

テーマの  
変遷

女性医師  
就労実態  
報告

勤務環境  
改善

意識改革

# 日本医師会臨床研修医支援ネットワーク

## 【目的】

臨床研修医に対し、日本医師会の事業のうち、広く利用できるサービスを無償提供することにより、臨床研修医を支援する併せて、日本医師会への理解を深めてもらう

## 【対象者】

臨床研修医

## 【利用料】

無料

## 【サービス開始】

平成23年4月1日

登録方法は、日本医師会ホームページ  
「臨床研修医支援ネットワーク(RSN)」まで

<http://www.med.or.jp/rsn/index.html>

※平成23年度から、日医の卒業生贈呈本の付録資料として、直接すべての卒業生に行き渡るように配付

# 日本医師会臨床研修医支援ネットワーク

**日本医師会  
臨床研修医支援ネットワーク**  
Resident Support Network (RSN)

のご案内



 **日本医師会**  
<http://www.med.or.jp/>

**日本医師会 臨床研修医支援ネットワーク**  
Resident Support Network (RSN)

日本医師会では、臨床研修医の皆さまを支援するため、日本医師会の事業のうち、広く利用できるサービスを無償提供しています。  
日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) から登録でき、登録料、利用料とも無料ですので、是非ご登録のうえご利用下さい。

対 象	臨床研修医
登録・利用料	無 料
利用期間	臨床研修期間中

**登録方法**

日本医師会ホームページにある登録フォームに必要事項を入力してください。  
申請受付が完了した旨のメールを自動通知し、その後、コンテンツにアクセスするためのIDとパスワードをあらためてメールでご連絡いたします。

日本医師会ホームページ <http://www.med.or.jp/>

## サービス内容

- ▶ 日本医師会会員専用ページの閲覧
- ▶ 日医医学図書館の利活用
- ▶ 日本医師会雑誌のPDF閲覧
- ▶ 生涯教育 on-line の利活用
- ▶ 日医白クマ通信の配信
- ▶ 日医会員特別割引ホテルオンラインサービスの利活用
- ▶ その他情報(武見フェロー等)の配信 等

# 情報誌『ドクターアゼ』

## 【名称】

Doctor-ase（ドクターアゼ）

「医師にする酵素」の意味。様々な情報を通じて、医学生が医師になるのを助けるという含意

## 【コンテンツ】

医療界全体について考える視野を持ってもらうとともに、医師会への理解の深化を目的とする内容とする

## 【ボリューム、発行頻度、配布先、創刊時】

A4版フルカラー（44ページ）

年4回発行（4月，7月，10月，1月）

配布先は、①全国の大学医学部・医科大学、②主要予備校の医学部進学コース、③医学部に多くの卒業生が入学する一部高校等

2012年4月創刊（現在、第7号作成中10月25日発刊）



医学生向け  
無料情報誌『ドクターゼ』  
2012.4 創刊

- 発行部数：約6万部
- 発行：年4回

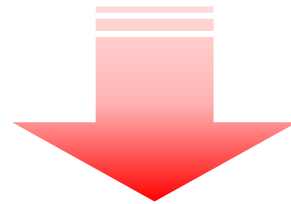


# 医師の生涯教育

- 医学部教育コアカリキュラム
- 医師臨床研修制度
- 専門医制度

患者は、

女性が約 5 割、男性も約 5 割

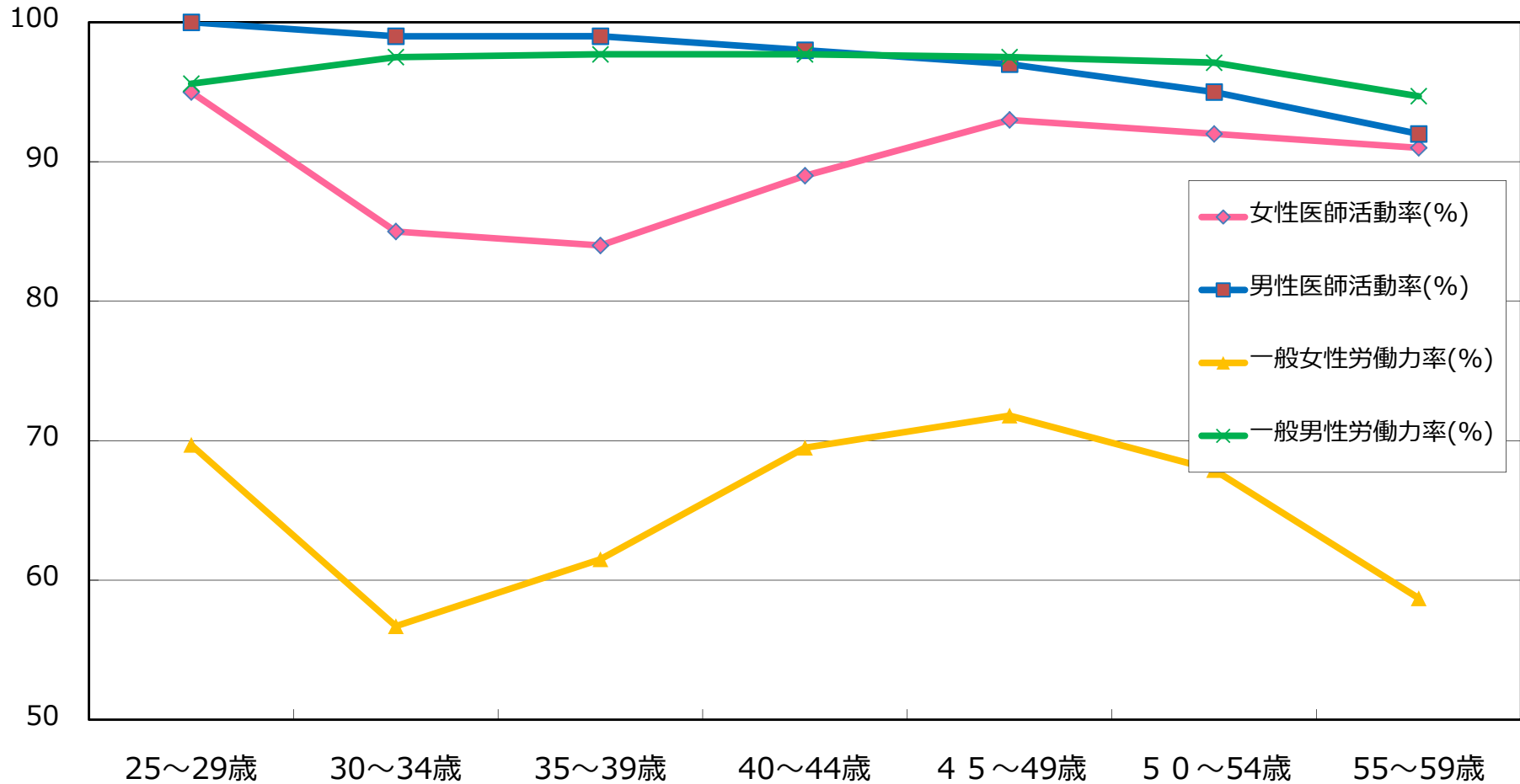


医師も、

女性 5 割、男性 5 割 が理想

# 女性医師の活動率

女性医師が活躍し続けるには、出産期、育児期のサポートが不可欠



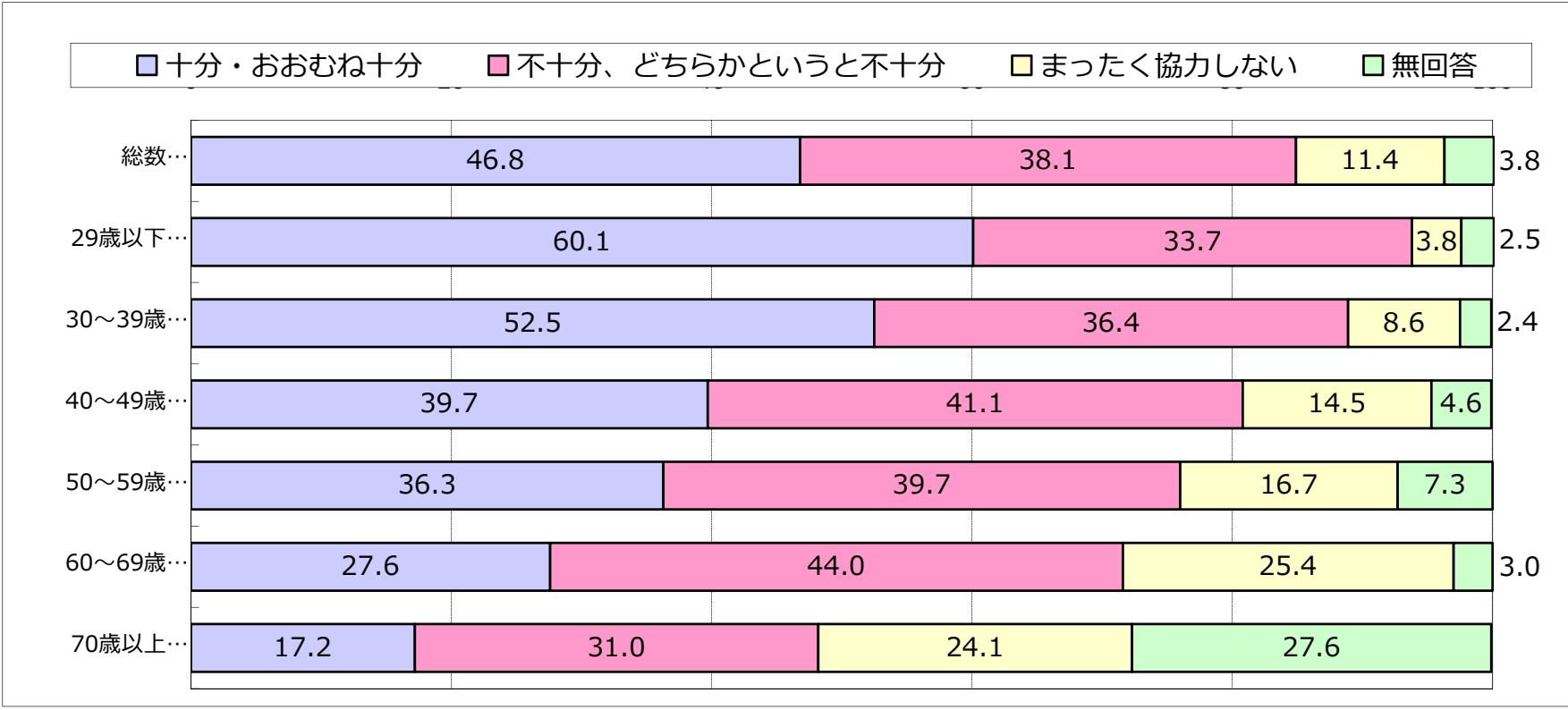
医師の活動率：平成10年医師の需給に関する検討会の上位推計より

一般労働力率：1999年「労働力調査」（総務庁統計局〈当時〉より）

# 女性医師の勤務環境の現況に関する調査 続報 より 男性が働き、女性が支える

⇒ それってフル～イ!!

クロス集計 図16 配偶者の家事・育児への協力の評価-年齢別



# 女性医師を取り巻く諸問題



乗り越えるべき壁 ではなく、

チャンス



**わたしたちが、** 日本の医療を創る

全国からこんなにたくさんの方々に  
集まっていたいただきました

ありがとうございました！



日本医師会